

# 日系人差別や 戦場生々しく

「442日系部隊」すずき監督

「シナリオはない。証言を集めてから映画全体の構成を決めた」とすずき監督

―静岡市葵区



カ人としての存在証明をかけた勇猛果敢に戦い、多くの勲章を受けた。

2001年に渡米し、ロサンゼルスで生活するすずき監督は、日系人との交流の中で「今こそ彼らの歴史を記録しなくては」と思いを強くしたという。「日本人は日系人を知らなすぎる」という焦燥もあった。

うが生々しく浮かび上がる。

強制収容所で徴兵忌避し罪に問われたいわゆる「ノー・ノー・ボーイ」にも言及。日系人社会に根強く残る、対立する二つの価値観を丁寧で紹介している。「442部隊を英雄視するだけの映画にはしなくなかった。日系人を取り巻く状況を、第三者としてきちんと言及した」。

6月10日まで静岡シネ・ギャラリーで公開中。

第2次世界大戦中に日系二世で編成されたアメリカ陸軍442連隊を描いたドキュメンタリー映画「442日系部隊 アメリカ史上最強の陸軍」のすずきじゅんいち監督が静岡市を訪れ、作品にこめた思いを語った。

「日系人、アジア人のアメリカにおける地位が上がったのは442連隊のおかげ」という。1941年の真珠湾攻撃を境に「敵性国民」として差別を受けた日系人。強制収容所などから集められた442連隊は、己の名誉とアメリカ

映画は80〜90代に達する442連隊の退役軍人へのインタビューを柱に、イタリア、フランスなどかつての戦地でのロケ、大戦中のニュース映像で構成されている。時折日本語が交じるかつての兵士たちの証言からは、過酷な戦場の風景や、日系人差別のありよ